

# 自立活動（通級による指導）学習指導案

難聴通級指導教室

1人(3年女子)

指導者 北 川 政 人

## 1 題 材 お話を作ろう(二)(想像してみよう)

### 2 題材について

#### (1) 題材の価値

対象児は補聴器を装用し、主に聴覚口話法により他者とコミュニケーションを図っている。明朗快活で、他者と関わることにほとんど抵抗は見られず、通級指導教室で自分の身の回りの出来事を話すときも、短い文章であるが自分から進んで話をするすることができる。

このように、自分の思いを言葉で表現することに積極的ではあるが、難聴に伴う語いの不足から、日常生活で使う言葉についても知らないものが多い。また、知っている言葉に関連する周辺の語いの獲得についても、3年生段階として十分なレベルではない。そのため、相手と会話が続きなかつたり、日記や作文においても二語文や三語文程度の短い文章を羅列したりする傾向も見られる。また、絵を見て場面の状況を簡単な文章で説明する力はあるものの、登場人物の表情や様子に着目し、登場人物の気持ちを想像して文章の中に書き加えたり、場面の状況から想像力をふくらませて話を作ったりすることに関しては、十分であるとは言えない。

そこで、本題材では、絵をもとにした話づくりを通して、教師とのコミュニケーションを楽しみながら語いを増やし、さらに、自分の作品の内容を他者へ言葉で伝えるという活動を設定することで、学習した言葉や文章表現を実際に活用することができるようにする。また、気持ちを表現した会話文も積極的に話の中に取り入れ、絵の情報を基に想像力を働かせて自分の話を作り出すことができるようにする。

指導に当たっては、絵の好きな対象児にとって、身近でありながら、なおかつユーモアのある二つの場面の絵カードを題材に用いることで、楽しみながら意欲的に話づくりができるようにする。また、絵の中に出てくる物や、場面を説明するときに教師から発せられた言葉の中に分からない物があるときは、その場でことば絵辞典や国語辞典等を使い、新しい言葉の意味を調べることができるようにする。さらに、対象児が登場人物の気持ちを意識できるように吹き出しを作り、その気持ちの理由を「～ので」や「～だから」という言葉で説明するように意識させて、文章作りに取り入れるようにする。また、「そのあとどうなったか。」という視点から、想像をふくらませて話を作ることができるようにする。そして、新たに学習した言葉や文章表現を取り入れた話を、マイクを通してパソコンに音声入力し、それを電子紙芝居にして他者に見てもらうことで、自分の作品が伝わったという達成感を味わうことができるようにする。

このような学習を通して、対象児は話を作る楽しさを味わいながら、文章や会話における表現方法を身に付けることができると考える。さらに、学んだことを使って会話を楽しむ経験を積むことで、将来にわたって自分自身で言葉を増やそうとする態度と、これからの話すこと・聞くこと、書くこと、読むことといった言語活動への大きな自信につながっていくと考える。

#### (2) 題材の目標

教師とのコミュニケーションを楽しむことができる。

分らない言葉があったときは、教師に尋ね、一緒に調べることができる。

登場人物の気持ちや会話、その後の展開を想像して話を作ることができる。

自分の作品を、他者に言葉で伝えることができる。

### (3) 対象児の実態

聴力		右	左
	裸耳	62.5 dB	72.5 dB
コミュニケーションの実態		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 恥ずかしがり屋の面もあるが、友達も多く、誰とでも仲良くなれる。</li> <li>・ 話を聞くと時には、相手の顔を見ながら積極的に聴覚を活用しようとしているが、補聴器を装用することを忘れて過ごすこともある。</li> </ul>	
【話す】		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発音は比較的明りょうであるが、サ行の発音を苦手としているところがある。また、質問に答えるときや、人と会話をするときも、短い文章（二語文程度）で答える場合が多い。</li> </ul>	
【聞く】		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手の話を最後まで注意深く聞き取ろうと努力はしているが、分からない言葉が会話の中や文中に出てきても、そのまま聞き流していることが多い。</li> </ul>	
【書く】		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作文や日記などを書くことに抵抗感はなく、文字を丁寧に書くことができる。当該学年の漢字も書くことができる。</li> </ul>	
【読む】		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音読は大好きで、感情を込めて読むことができる。</li> <li>・ 語いが少ないため、文章の内容を理解できないことがある。</li> </ul>	
題材に関する実態		<p>【語いに関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵画語い発達検査〔修正版〕（日本文化科学社 著者 上野一彦 他）による検査（平成19年5月11日実施）では、5歳9ヶ月の語い年齢と推測される。当該学年レベルに対して語いの少ないことが課題である。</li> </ul> <p>【題材に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ お話づくりに関しては、これまで国語の学習や通級での自立活動で経験してきているため、抵抗感は少なく意欲は高い。絵を基にして作文を書くときも、絵を見て気がついたことを三語文程度の文章にすることができる。また簡単な会話も入れることができるが、登場人物の気持ちを想像してくわしく書くことに関しては十分とは言えない。</li> <li>・ 絵を描くことが大好きなため、絵を題材とした活動には大変意欲的に取り組む。</li> </ul>	

### 3 指導に当たって

本題材の指導に当たっては、子ども一人一人が学ぶことを楽しむことができるように、以下のような点に留意して指導していく。

研究の視点1（教育的ニーズに応じた年間指導計画・指導内容一覧の作成）

- ・ 難聴児にとって、共通の課題である語い拡充の内容を中心とした年間指導計画を作成し、対象児の教育的ニーズである『音読や絵本作りなどを通して、いろいろな知識を獲得したり想像を広げたり、語いを拡充したりする』ことに応じることができるように、絵カードを使ったお話づくりを題材として設定する。その際に、対象児の興味・関心が高まるような絵を準備し、日常的な場面に使う言葉を中心として語いを拡充することができるようにする。

研究の視点2（子ども一人一人がめあてをもち、生き生きと活動する授業づくり）

- ・ 絵の好きな対象児が、話の筋を考えたくするようなユーモアのある2枚の絵を使い、日常の中で出てくる言葉を中心にお話づくりを進めることで、楽しみながら意欲的に取り組むことができるようにする。また、あらかじめその時間に使うことができるようになって欲しい言葉を教師の側で2つ準備し、最近接領域の目標を設定する。 【研究の視点2 - イ】
- ・ めあてを提示する際に、本時の学習における中心となる課題を意識させるために、教師の側から考えさせる資料を提示し、それを基にめあてについて話し合う時間を作ることで、めあてを意識し、見通しを持って授業に取り組むことができるようにする。 【研究の視点2 - ウ】

- ・ 本題材では、できる状況づくりとして、第1次の段階では1枚目の絵の話を教師が作り、その続きを対象児が作ることで、会話や気持ちを入れた話の作り方を学ぶことができるようにし、2次においては、学習したことを生かして2枚とも自分で作ることができるように設定する。

【研究の視点2 - エ】

研究の視点3（学んだことが生活でいきるための家庭や在籍校との連携）

- ・ 通級の時間に学んだ内容を定着させるために、在籍学級や家庭でも取り組んで欲しいことについては、連絡帳の中に特別に枠を設けて書き込んで伝え、連携して強化できるようにする。また、子どもが作った作品は学級担任を通じて同じクラスの友だちにも紹介してもらい、自信をもって友だちと関わることをできるようにする。

#### 4 指導計画（全12時間）

過程	時間	指導のねらいと主な学習活動	教師の支援（ 研究の視点に関する支援）
1次	1	『わたしのパソコン紙しばいを作ろう。 ～ 気持ち ～』 【指導のねらい】 登場人物の気持ちを考え、それをもとに話を作ることができる。 【活動内容】 1 2つの場面をお話の順序に並べる。 2 それぞれの絵を見て、どんな場面か話す。 3 先生の話聞いて次の場面の話を考える。 4 完成した作品を録音する。 5 完成した作品を見てもらう。	2 めあての提示の際、教師の側から気持ちを考えさせる一枚絵を提示して、登場人物の気持ちを考えながらお話を作っていくという意識を高めることができるようにする。 2 順番も自由に操作ができる2枚の絵を使ってお話づくりを進めることで、楽しみながら意欲的に取り組むことができるようにする。 2 導入時に扱った気持ちのカードや、気持ちを考えるための資料など、手がかりになる物を黒板に掲示し、対象児自身が確認して活動を進めることができるようにする。
		『わたしのパソコン紙しばいを作ろう。 ～ 気持ち 会話 ～』 【指導のねらい】 登場人物の気持ちを考え、それをもとに会話文を入れた話を作ることができる。 【活動内容】 前時に同じ	2 登場人物に名前を付けたり、役割演技しながら会話文を入れたりして、生き生きとした話を作ることができるようにする。 2 自ら分からない言葉を尋ねたり、調べたりする活動を行ったときには、ごほうびシールをもらい、称賛される経験を通して、語いを増やそうとする態度を身に付けることができるようにする。
2次	10時間 扱い 本時 8時間 目	『わたしのパソコン紙しばいを作ろう。 ～ 気持ち 会話 そのあとどうなった ～ ～ 』 【指導のねらい】 登場人物の気持ちを考え、それをもとに会話文を入れた話を作ることができる。 【活動内容】 1 2つの場面をお話の順序に並べる。 2 それぞれの絵を見て、どんな場面か話す。 3 お話をつないで、一つの話にする。 4 完成した作品を録音する。 5 完成した作品を見てもらう。  この活動を、絵を変えて10時間行う	2 子どもが、話を想像しにくい場合には、登場人物の表情の絵カードをいくつか提示し、想像をふくらますことができるようにする。 2 今日の学習をめあてと結びつけて振り返り、称賛や励ましの言葉かけをすることで、次時の活動への意欲を高めるようにする。 3 自分の作品を保護者や他の通級生から称賛してもらうことで、達成感を味わうことができるようにする。 3 子どもが作った作品は在籍学級でも紹介してもらうことで、自信をもって他者と関わろうとする意欲を高めるようにする。

## 5 本 時 ( 1 0 / 1 2 )

### (1) 目 標

- ・ 会話やお話づくりの活動の中で、自分から進んで教師へ話しかけ、教師とのコミュニケーションを楽しむことができる。
- ・ 分からない言葉があったときは、教師に尋ね、辞典等を使い、一緒に調べることができる。
- ・ 提示された二つの絵をもとに、登場人物の気持ちや会話、その後の展開を想像して二つの場面の話をつながりのある一つの話にまとめ、他者に言葉で伝えることができる。

### (2) 展 開 ( 4 5 分 )

時間	主 な 学 習 活 動	教師の支援( は研究の視点に関すること)
始 業 前	補聴器の点検をする。 ・ 本体やイヤモールドの汚れ、電池残量のチェック	補聴器をきれいに拭いたり、電池の消耗の程度を確かめたりすることで、補聴器を良い状態に保つことができるようにする。
(分)	1 はじまりのあいさつをする。	通級までの一週間にあった出来事を子どもと話し、受け答えの様子を観察することで聞こえの状態を把握する。また、会話の中で助詞の使い方や、サ行の発音に誤りがあった場合には、その場で修正したり練習したりする。
(3)	2 先生と話をする。 ・ 学級便りや日記をもとに、「だれが」、「どうした」に注意しながら、最近の出来事について話す。	2 活動の流れが分かりやすいように、ホワイトボードに紙芝居づくりの手順を掲示しておく。
---	3 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">わたしのパソコン紙しばいを作ろう。 ～ 気持ち 会話 そのあとどうなった ～</div>	2 めあての提示の際、教師の側から気持ちを考えさせる一枚絵を提示して、登場人物の気持ちを考えながらお話を作っていくという意識を高めることができるようにする。
(40)	4 お話をつくる。 (1) 2つの場面を、お話の順序に並べよう。 (2) それぞれの絵を見て、どんな場面かお話ししよう。 (3) お話をつなげて、一つの話にしよう。 (4) 完成した作品を録音しよう。 (5) 完成した作品を見てもらおう。	2 絵の中に出てくる物の名前や教師が発する言葉の中で、意味が分からないものがあるときには質問するように促し、定着していない言葉を実際に拾い上げて、その場で調べたり確認することで、語いを増やす機会を逃さないようにする。また、質問できた場合にはごほうびシールを渡し、称賛することで、語いを増やそうとする態度を身に付けることができるようにする。
---	5 本時の活動を振り返り、自分の頑張ったことを発表する。 (1) めあてについて振り返る。 (2) これまでに作った作品を振り返る。	2 子どもが、そのあとの話を想像しにくい場合には、登場人物の表情の絵カードを提示し、想像をふくらますことができるようにする。
(2)	6 おわりのあいさつをする。	2 今日の学習をめあてと結びつけて振り返り、称賛や励ましの言葉かけをすることで、次時の活動への意欲を高めるようにする。

